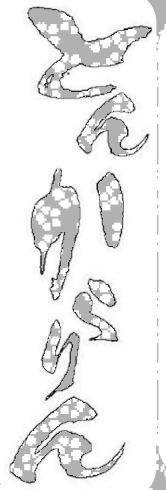


月刊サカタニ友の会ニユース



黙っていると

何時も順番

後回し

北大路大橋と七条大橋

鴨川に架かる二つの橋の写真を並べた。一つは昭和8年に架けられた「北大路大橋」(右)の平成20年までの汚れの見えた姿。もう一つは大正2年の「七条大橋」(左)で年齢は差は、七条が20歳(真)には戻らず、建築学会が「土木学会選奨遺産」に選ばれたのに出来た橋より出来た橋よりの丈夫で、数「街路灯」である。



元々あった「照明灯」には戻らず今も、昔の姿には(写真)



元々あった「照明灯」には戻らず今も、昔の姿には(写真)



にして良いだろう。

鴨川で戦前からある橋は、戦時の金属供出で「欄干や照明灯」は没収された。そして戦後、七条大の七条に肝いりで梅小路水族館が橋は、代替の木の欄干のまま、街出来たから単純ではないのかも。

発行(株)サカタニ 集西楽・サカタニ ファミリーマート サカタニ京阪七条店 〒605-0993 京・東山区七条こころ坂下 ・075-561-7974 URL www.sosake.jp/ Eメール info@sosake.jp 編集・酒谷義郎 yosi rou@sosake.jp

第93回:朝粥食べておシャベリ会 報告

定例：9月16日第3日曜日
お話：七条大橋百周年を祝って、鴨川と橋の昔話会

講師：中村伸之様

立命館大学・宝塚大学講師 (有)ランドデザイン代表

京都の歴史は常に鴨川と共に流れてきた。特に、七条大橋と四條大橋は、共に日本で最初に出てきた鉄筋コンクリートの、アーチ橋。四條は付け換わった。七条はそのまま、この橋が出来た後、大正と昭和初期につくられた建物が今も京都の鴨川的美観をささえている。百年を元の姿で！

下の趣のある「照明灯」と調和した欄干に戻したい



中村伸之様(NPO法人景観フォーラ



だが、こんな事実がある。言をしたと言つ。私たちは、七条大橋の「今日」も考えず黙って供出された照。地元が黙ってはダメ七条大橋架橋百年、せめてものプレゼント。汚れ洗浄を5トは、汚れを落とし照明灯を「戦前の姿」にして上げたい。

七条大橋竣工百年記念「鴨川橋めぐりツアー」 NPO法人・京都景観フォーラム主催で行われたツアーは、定員を超える参加者が、七条大橋を出発点とし三条木屋町「瑞泉寺」を終点に、三班に分かれて橋めぐりをした。



出発点の七条大橋は、99年間一度も流されず、鴨川の東西を結んで来た。東山の入口で観光客の多く通られる橋は、「一覽のような、雑草の「レイ」をつけてお迎えしている。恐らく世界でも余りないだろう。チョット恥やと、少人数で外そうとしてるが自然に勝てん。助けて！



出発点の七条大橋は、99年間一度も流されず、鴨川の東西を結んで来た。東山の入口で観光客の多く通られる橋は、「一覽のような、雑草の「レイ」をつけてお迎えしている。恐らく世界でも余りないだろう。チョット恥やと、少人数で外そうとしてるが自然に勝てん。助けて！

とんつき

10月号の1ページ

ジは、思い入れで来年架橋百年の「七条大橋」号にした。昭10・橋は流れなかったが、低地の我家は床上浸水、1歳半の私は盥に乗せられたとか。子供は風の子。外で遊ぶ時代。鴨川は格好の遊び場。深みで泳ぎを覚え浅瀬で魚とり。家は酒屋、リヤカーで酒樽酒桶を河原へ運び、砂利と川水で洗い干す。幼児も手伝つ。その頃、仰ぎ見た橋は、川下の滝音を背に雄とした橋の姿が今も眼に残る。長じ、京阪地下化に併せ商店会仲間と七条通改修と河川敷美化運動し今の姿を得た。橋は来年百歳、昔の美形で祝あげて、翌年の我が傘寿を清々しい気分でごしたい。

ヨシイちゃんの ひとりごと



大消費から 節約時代へ

今号の「酒屋で生きて

生かされて」で、「コンビニ」に業態変更以前のことを書いています。その中で、米国の『消費拡大』経済発展』という考え方を知り、後「コンビニ」を開業した。そして26年という時が流れた。

年中無休24時間営業がない時代から、チョットした交差点でも四方を見ると、必ずコンビニがある時代になった。しかも弱小チエーンは消え大手コンビニに代わっている。コンビニだけで無くその傾向は総ての業種に及んでいる。

それは、国家が、経済発展を最重要視し、国家の方向性に「新資本主義」に向けてとする政策がとられたからだ。「規制は競争を阻害する」と諸々の規制を緩和した。相撲で土俵の大きさを上げたら小兵力士は勝てないし、ボクシングも重量に関係なく闘わせれば勝敗は歴然、面白くない。

スポーツには「ルール」があり違反許されない。が、最近の「経済(ただけではないが)は一応ルールがあるが、強者の都合に合わせられ、少し不利になると「自由化」で強者の都合の良い方に代えられる。

それも経済界の枠だけでなく、政治もそれを応援する。それが資本主義の発展の原則なのだろう。そしてそれが大成功した国がアメリカで、土壌が違う日本もそれを手本とした。

元々、アメリカという国は、異端で、ヨーロッパからの移民が土着人々の土地を武力で奪い、更に労働力として、「人攫い」のようにして出来た国。他の資本主義国とは違った価値観が支配しているのだろう。その国に完膚なきまで叩かれ破れた日本はそれをモデルに、大量生産大量消費社会を目指した。対抗する「ソ連」の崩壊で一人勝ちになった。

だが、近年その矛盾が世界、日本で露呈して、貧富格差は広がり地球温暖化、原発等で表面化してきた。限られた資源を大切に節約、自然破壊を止めては、如何だろうか。と、「ご飯粒を残したら目がつぶれる」といわれ「ウンコも肥料」に生まれ育った「とんからりん」の子は思っている。孫子らの世代のために。Y.S



西部劇・黄色いリボン
風とともに去りぬ
世代のために。Y.S

他人の冷たさを知る 倒産の怖さ切なさ

資本 金2、

046億、500万円・売上・連結純益、558億、000万円 雇用者グループ総人員・8,400名(国内8,800名、海外32,600名)の巨大な「シャープ」が倒産寸前というニュースが日本を駆けめぐっている。



大正元年(1912)ベルトのバックルから身を起こした早川徳次(当時8歳)がシャープペン等、常に時代を先とりして巨大な会社になった

お金の要らない 長い生き方

長寿の一步は階段の
上り下り

七条通の「どんつき」から、京都学園に向かう「女坂」を更に東へ行くと「大團地(たいだんち)」と呼ばれる平地があり石段がある。それは山頂の、豊臣秀吉公廟所へ上る階段だ。中門まではゆるい石段が300・そこから急な石段が300・計600である。小六の下の孫娘と



一續C下入行つた「上るか?」「上りたい」「金何がし

シャープ。その会社が倒産するかもと言つ。株主でもないの直ちに実害はないが、昨年シャープのテレビを2台買ったばかり。エライヤイコッチャ。ソニーにしたら良かったなあ思つ。折りしも親しい知人の会社が自己破産した。身につまされて他人事に思えない。

私の20歳時、父の経営していた酒問屋(個人経営)酒谷本店が多額の「遣い込み」の影響で破産寸前になった。半年余り後、私が仕事を手伝つ条件で話し合いが付き、半額の出資を得て株式会社で再発足した。その間の辛い日々が払い、上ることとした。中学頃

は何度か上り、そのあたりは「遊び場」、当時は家の中では殆ど遊べなかつたものだ。300段の中門まではスイと上がったが、後の200段の残り最後の100段程は息が切れる思い、だが上り切った。苦しそうな顔を抑えて、孫娘に「どや、しんどかつたやろ」にケロッとした顔で「一寸だけな」と応えた。

平常、私は店の2階で仕事をしていた。階段は20段、少なくとも一日20回上下するから400段になる。外へ出てエレベーター・エスカレーターは使わず。電車で座らず、セツカチ屋で歩

は、今も忘れない。熱烈に応援下さつた方も少数あつたが、近づくことを避けた人が圧倒的に多かった。

あの人かと思つ方があり、淋しく悲しい思いをした。金の無いのは商売の世界では首の無いに等しいと、「我が力が総て決めるのだ」を生き方の信念にした。その後6年後、また危機があり他社の子会社になる。そしてそこを離れて再スタートは40歳時だ。一生懸命に頑張れば、必ず危機に救いの手はあった。

得た教訓は、捨てる神より救つ神の方が多しと信じているこの頃です。くすびドは早い。ある本によると、階段上りの膝を挙げる動作は、主に腸腰筋が使われ、この筋肉は、「普通の歩き」では余り使われず、衰えると、足が拳がらなくなりまづいて転倒し、姿勢が悪くなり腰痛や肩こりなどの原因にもなる。階段上りで腸腰筋が鍛えられることで、「われらが防げ、改善される。」その他、階段効果は、筋力の強化、全身持久力の向上、なんと言いつてもエネルギー消費も増えて、メ

タボ対策に効果がある。階段を好きになつて、多に利用しましょう。たまに有料もあるが、大抵の階段は、無料でつしやる。階段登り降りして健康万歳!

京都&東山 ぶらりピカリ

37

那須与市の墓 即成院

私に住み商いをしている京都東山の南部は、清水焼、扇子、団扇、カルタなど職人の町であった。特に「扇子」関係は幾層にも手仕事の分担で成り立っていたので職人さんが多くいた。

カルタも鴨川正面橋近くに「任天堂」本町通に「大石天狗堂」があり、その職人さんも多い。何れも伏見区に移転され任天堂は、麻雀牌から「ゲーム」転換され世界の「ニンテンドー」になっている。昭28年頃、同社が鳥羽街道近くに移転された当時、無期限ストが起り、「もつこの会社は潰れるか」と思ったが今の隆盛はおめでたい。何れ、扇子カルタのことを東山の絡に書くことと調べていて、「那須の与市の墓」に巡り即成院を書く。さて、即成院(そくじょういん)は真言宗泉涌寺派総本山・泉涌寺の山内にある塔頭である。毎年10月に行われる「二十五菩薩練供養」の行事で知られ、上の絵



は那須与一が、源氏と平家の「屋島の戦い」で、源義経の軍勢に参加、平家が立てた



扇の的を、見事に射落としたことで有名な武士。弓を射るから「入る」の連想でか、入試前には受験生のお参りが多くと聞くと、請願成就の「扇



を求め捧げる人も絶えない。東山区に扇子業が多かったのは其れゆえだろうか? ご存知の方に教えてもらいたい。先に書いたらよいに此処は皇室のお寺で「みづら」と崇められる「泉涌寺」の塔頭の二つ。天皇皇后の両陛下や皇族方が、事ある度にご参拝に見え、その都度、七条通をお通りになる。明治生まれの祖父は、大正天皇、昭和天皇の「ご大典」(即位式)後にお通りに、道路に、簾を敷いて馬車でお通りの陛下を家族そろって拝んだと自慢していた。調べて見ると大正天皇の即位式は大正4年。七条大橋は完成前々年に既に完成し、市電も通っていたらどう。謂わば七条の夜明けの頃。それから百年経った。このあたりを元氣な街にしたいものである。

市電が走った街 京都を巡る

福田静二



千本丸太町を出た市電は、賑やかになってきた街並みを見ながら、北上します。ごく緩やかな坂を上りながら、まもなく次の停留所、千本出水に到着します。千本通には、小さな商店が両側に並びます。

交差する出水通は、七本松通から東へ、烏丸通までの東西約一・六キロの短い通りです。その名前の由来は、これから紹介する豊臣秀吉の聚楽第造営の理由のひとつに「良質の水が出る」ことがあったと、昔から湧き水の多い、水に恵まれた地域であったようにです。

千本出水の交差点から少し東へ歩き北へ行った中立売通に「聚楽第跡」(じゅらくだいいと)と書いた石碑・駒札が立っています。聚楽第は豊臣秀吉の京都における邸宅として、平文京の大内裏旧跡に建築されました。秀吉は夫正十二年(1585)に關白となると、翌年から聚楽第の造営を始め、夫正十五年に聚楽第が完成しました。聚楽とは「長生不老の楽しみを聚(あつ)める」という意味です。

聚楽第の範囲は、北は元誓願寺通、東は堀川通、南は押小路通、西は千本通を外郭とし、内郭には本丸を中心に北ノ丸、南二ノ丸、西ノ丸の曲輪(くるわ)が築かれていた城郭風の邸宅です。ちょうど南側に今も残る二系城とほぼ同じ大きさであったようです。金箔瓦が多用されるなど聚楽第は贅を尽くした建物でした。

しかし、秀吉の死後は、徹底的に破壊され、今もその全容はわかっていません。現在では、往時を偲ぶものは本丸付近(推定)に建つ石碑のみですが、発掘調査によって堀跡の遺構や多数の金箔瓦が出土しました。また付近の松林寺の境内はかつての堀跡であるとい、表門と本堂との落差が二メートルあるのはその名残りと考えられます。また、大宮通下長者町上ル東入ルには古井戸があり「聚楽第屏風図」に記された「梅雨の井」の跡と伝わっています。

掘の外には武家屋敷が配置されました。いまも如水町や浮田町など、市電がなくなつた街に、模型で鉄道が復活したんですね。



千本出水付近を南へ下る1号系統



千本出水停留所から北を見る。両側は商店が連なる

酒屋で生きて 生かされて

第七十三話

地方銘酒を知り 日本名門酒会に参加



の1軒、南座前に「杉さかや」

の小さな居酒屋が有りました。そこは大島清さんが常連客、クセモノ役者、殿山泰司、戸浦六宏、渡辺文雄、佐藤慶、石室淑郎、小松方正らのほか、劇団民芸、くるみ座、テレビ局の演出部などの人々が溜(たま)り場としていた店。女将は、個性強い怖いおばあちゃん(田口真子さん)。そのお客も、夫々個性が強く、自分の気に入った地方の酒を店に求められ、そのお酒を仕入れることになりました。酒造家さんから直接で一度に30本、本美少年(熊本)司牡丹(高知)白真弓(岐阜)等を買ったことになりました。京都では、伏見灘の特級一級酒が販売の主流、店では中々売れず在庫が増えて困りました。ある時、「杉さかや」さんから



戻って来た酒の空瓶の栓をはずして「香り」

を嗅ぎ驚きました。空けてから相当に日が経過しているのにすばらしい吟醸香が残っていたのです。ラベルには「浦霞(宮城)」とあり「純米酒」でした。こんな酒を売りたいと申し入れ販売を始めました。その頃は市販酒でその様な香りの酒は極まれでした。余談ですが「吟醸香」をチョット説明します。

【吟醸香は吟醸酒用の酵母がアルコール発酵と同時に生み出す香り。でリンゴやバナナのような香りもあり】

その様な良質な地方の酒でも、一般には「田舎酒」扱いで、伏見の知名度のある銘柄の酒が市場では支持されていたのです。私は「どちらと言つと」勝ち馬に乗るより負け馬に乗って勝ちたい性格、それは「わが社レベル」では苦しい状態でした。



日本名門酒会

その頃(昭52)勉強仲間の東京の「トミナガ」さんから東京の酒問屋「岡永」さんが「日本名門酒会」のお誘いだと連絡が入り「理念」お聞きして早速参加した。その後の「会」の発展は目覚ましい。日本酒は、世界に誇れるお酒である。呑んでや

まくまく ニュースより 転載尻にウナギ入

り



で男性の尻に近付いたうなぎは、これ幸いとばかりに彼の尻の中へと侵入したのかも知れない。

ニュージールランド紙ニュージールランド・ヘラルドによると、オークランド市立病院にこの男性患者が現れたのは、6月中旬のこと。病院に救急外来でやって来た「成人男性」は、「自分の尻に入ったうなぎを取り除いて欲しい」と関係者に説明し、治療を求めた。ほかのヘンテコなモノが尻に刺さった患者は、これまでに何人か見て来たという同病院の医師や看護師たちも、今回ばかりは「うなぎは初めて」とビックリ。まずは実際にどうなっているのか、患部のレントゲン検査を行ったという。すると、男性の尻の中には「標準的なアスパラガスのサイズ」ほどという「約6センチ」(豪スライニューズより)のうなぎがいるのを間違いないと確認した。

ニュージールランドの川には、一般的に「ショート・フィン・イール」「ロング・フィン・イール」と呼ばれる2種類のうなぎが生息している。太さには大きな相違があるが、どちらも成長すると体長1メートル前後になるのは同じで、その点から考えると今回男性の尻に入ったうなぎはサイズの「子どものうなぎ」だったようだ。嗅覚を頼りに餌を探し、夜行性で、体が隠れる場所を好んで生息する習性があるというだけに、何らかの原因

結局うなぎは滞りなく尻の中から出され、男性も「その日の内に退院」。大きな問題もなく、男性の「緊急事態」は解決したようだ。それにしても、なぜ男性がこのような事態に陥ったのか、とても気になるこの一件。病院のスポークスマンはメディアの取材に対し、男性の話を「事実」と認めたものの、尻にうなぎが入った経緯など詳細については「彼のプライバシーを尊重」して明かしていない。こんな話に何故反応したか? 5歳のお客様にサービスで塩豆を出している、それを入れた「缶」が傍にあり、一つ摘んで「鼻の穴」に入れた。取り出そうと指を突っ込んだら更に奥へ、水分を含んだ豆で痛くなって、日赤で出して貰った。病院での痛さは今も覚えている。その影響だろう

人様に迷惑をかけるな

左の写真は我が祖母(右)の姉と弟。38年前の10月10日没した。9日に1日開店の祝い私にくれ、翌日ある会合で話の終わりのお礼を言っ頭を下げそのまま切れた。83歳有言実行し教えを残した。母以上の母、教える確認するため孫はこれを記した。



編集後記

尖閣諸島 竹島の領有権で

中国、韓国との関係がギクシャクしている。地理的にどちらも隣国、大事にならないことを望む。

日本は過去に朝鮮半島を植民地に、中国には一部に「満州国」のいつカライ国をつくり、後軍を進め侵略した。それに付いては、日本は加害者で西国は被害者である。得てして加害者は「事を忘れ易く、被害者は忘れ難いもの」。

子供の頃、中国の戦地から帰った千稚さんに、首が飛んだ人や銃殺の写真を見せられ、朝鮮の友人から万歳事件の話聞いた。その何れも日本が加害者、尖閣や竹島よりもっと大きな国々の土地を戦争で一時奪った。人的被害も多かったのだ。

その西国では勇ましい声も聞かえる。一方で、もっと大きい歯舞色丹はロシアから奪った島でない。勇ましい声も上がらない。

89年10月30日、李徳全團長と廖承志副団長の率いる紅十字会代表団が日本を訪問した。その時「東京北京」の友好が歌われた。

恐らくその時代、アジアの平和は日中友好で護れると信じたのだらう。西国とも以後経済は発展したが平和を維持する気が薄れた? ・日独伊二国同盟でなく平和の日中韓二国同盟でどうか。